

增補 鑊倉武鑑 系圖畧傳  
再板 所領分家

初編 下

247

庫	文	閣	內
一五	三五	四九	和
一函	五〇	九	書
一	四	冊	類
九	冊	號	
架			

史

內閣文庫	
番號	和 35509
冊數	4 ( 2 )
函號	151 247



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak









時政ハ伊豆ノ盤馬出陣の中ハ列を十午ハ之

女子 河野通信室  
 女子 平賀朝雅室  
 政範 北條左馬助



北條陸奥守義時  
 相模

泰時 武藏守  
 朝時 左大夫  
 重時 名越遠江守  
 政村 赤橋相摸守  
 女子 北條相摸守  
 實泰 佐木信綱室  
 陸奥六郎  
 女子 三浦泰村室  
 有時 北條越後守  
 時氏 北條修理亮

義時ハ時政ノ二男ノ父ノ悪ヲ懲リて又ノりも義時  
 表ハ忠良小守テ内ハ邪毒ヲ清ムル功  
 臣ヲ教ヘテ威又ハ守増スル於此實實  
 の様おもえハ義時ガ為ス所之号モ内ハ妹  
 政子ト合葬シ後ハ右幕下ノ松原絶トシ  
 帝於ノりた左大臣道家公ノ公直於經公  
 運テ將軍トシテ已後ノ政事ヲ務メ義  
 忠ハ後名徳院土御門院順徳院ノ三帝公  
 依後名徳院ハ桂ノ守ノ實實守ノ如シ

時實 同二郎  
 女子 足利美氏室

義貞の爲にさそりて  
 時實ハ義貞ノ爲ニ  
 一尉トシテ守ル也



北條武藏守泰時  
 伊豆相模

義時ハ義貞ノ爲ニ  
 一尉トシテ守ル也  
 義時ハ義貞ノ爲ニ  
 一尉トシテ守ル也  
 義時ハ義貞ノ爲ニ  
 一尉トシテ守ル也



北條家

名越

義時二男

名越遠江守



名越遠江守朝時

光時 北條越後守  
時章 名越尾張守  
時長 同 備前守  
時幸 周防修理亮

時基 同 刑部輔  
時長 同 中務大輔  
時章 北條左近將監

義時の二男少く武勇の因あり義久の令  
戦中北陸道の大使と為り

同

赤橋



赤橋相模守重時

義時三男

赤橋相模守

赤橋三年小幡の別名あり

長時 武藏守  
時茂 左近將監  
義政 駿河守  
業時 彈正少弼  
忠時 陸奥十郎

同

新相模



新相模左京大夫政村

義時四男

左京大夫  
從四位下

時村 新相模右京大夫  
宗房 同 四郎  
政長 同 駿河守

政村ハ義時の四男と見重時と代り  
執持時れの加判とあり政幸小功あり

鎌倉式目録



同 金澤

時六男 陸奥六郎

實時 金沢掃部助  
顯時 越後守  
時家 同 美作守  
實政 同 上総介

同 伊具

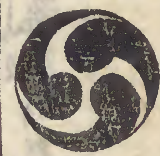
時七男 北條駿河守  
半石時

通時 同式部左輔  
時 同駿河六郎

同 佐介  
佐々目僧正  
年吳八郎

時政三男 北條武藏守  
平時房

時盛 從五位下越後守  
時村 相模二郎  
資時 同三郎  
朝直 同遠江守  
時直 同遠江守  
時定 同右近將監  
時弘 同越前守  
時隆 同式部少輔



北條陸奥六郎實泰 武藏

兄養尉小似て渥私仁厚のハ之小侍所の  
別番と成金沢甘名守等の御之守事家の  
孫弐後守顯尉ハ文章ノ志ありて文章と  
金沢ノ達て價公の由公収む金沢守事と



北條駿河守有時 駿河

有時ハ義尉の事子之始ハ大坂州トシ  
母子孫ト伊具ト稱と



北條武藏守時房 武藏

時房ハ時政の三男ゆて義尉の弟之始の義  
又常時連とり義朝々の臣家ハ其の  
傍系の子孫義連ガ加翁ゆて元服日  
義連一とと授けて時連と号と後ハ  
時房と改む忠尉と号ト其の弟  
後ハ義時尉トて其の加判ト  
其の子孫ハ傍系ト義朝相模遠ト其  
其の時房ハ其の弟



三浦

相武天皇四代 高望王三男  
鎮守府將軍良藏七代三浦平  
太郎為繼男

平美繼 三浦太郎

美明 三浦大介

美行 津久井二郎

為清 芳名三郎

美實 岡崎四郎

美宗 榎本太郎

美澄 三浦介監二郎

美久 大多和三郎

美春 多々良四郎

美季 長五郎

重行 杜六郎

美子 佐原十郎

有細 三浦平大駿河守

有細 土佐國中護

有細 山口二郎

有細 大隅守

有細 平判官

有細 三浦十郎

有細 三浦若狹守

有細 同少太郎右兵衛

有細 同 河内守

有細 同 武部左輔

有細 同 同四郎左門尉

有細 同 同五郎左門尉

有細 同 同六郎左門尉

有細 同 同六郎左門尉

有細 同 同六郎左門尉

有細 同 同六郎左門尉



三浦介義澄  
相模

義澄ハ大分義明が二男之嫡子義家早繁  
より三浦の流と稱ふは後醍醐天皇御  
荒二帝と稱ふ平治の戦中ハ悪源を  
征ひ十五騎の一人之依成義家の時大母の  
言ひちり西條方より多し九子川流  
由て流るるとそそ合戦小おく  
が彼と放火一門とたよあふ  
るの房及の御上中より合ひまより  
の軍切りの依成義澄が父大母が夜多の  
小て一族義勇と初め平身一人は流り



三浦駿河守義村  
相模

義村ハ義澄の二男又の義朝と稱ふ  
なつ切りの建暦二年五月後醍醐天皇  
御流叛の時とそそとてども又義朝と  
中條一通と称ふ義澄の弟お流し  
後小一族三日三夜の戦ひ悪くさひぬ  
室小義村が及平流ゆらり義村忠よ

横倉式鑑

三五







美濃 岡崎木郎

實村 同 二郎

八月十七日の夜軍... 勝つともいふ一人敵手小我ひ候其の... 乃ち... 六為... 其の... 夫して... 夫別...

同 和田



和田左衛門尉義盛 相模上総

大介美明長男 杉本六郎

美盛 和田小太郎 左工門尉  
時茂 同 小二郎

美盛... 時茂... 相模上総

宗實	同 三郎
茂胤	同 四郎
茂長	同 五郎
常盛	和田新左門尉
茂氏	同 二郎
茂秀	朝夷三郎
茂直	金亮四郎左門尉
茂重	和田五郎右兵衛尉
茂信	同 六郎左兵衛尉
茂盛	同 七郎
茂國	同 八郎

美盛... 時茂... 宗實... 茂胤... 茂長... 常盛... 茂氏... 茂秀... 茂直... 茂重... 茂信... 茂盛... 茂國... 侍所の別當と云ふ者の一人と云ふは...



徳政の時、矢野の... 谷の勇八、橋の浦の軍は、数々の傷を負い、実相の所、矢野  
國司の美顔と、年々いともいとも、小僧のまへに、色々の公中、小  
不平と懐く、小僧、二年、信濃原、氏原、小、親衛、が、家々の、二男、  
千壽、を、取、り、去、り、一、家、を、滅、び、し、つ、る、時、其、子、氏、直、氏、主、無、小、甥、  
流、を、保、護、人、と、し、ま、さ、る、ゆ、り、て、三、人、を、ま、ま、捕、り、た、り、の、義、登、佐、元、と、  
小、僧、を、息、二、人、に、取、り、教、え、る、義、登、佐、も、流、を、が、罪、科、を、受、め、せ、  
る、べ、し、由、と、い、ひ、一、族、九、十、八、人、は、所、の、事、庭、に、到、り、て、  
件、者、を、割、流、せ、し、流、を、か、け、て、到、り、た、の、義、登、佐、に、後、を、義、登、西、國、  
失、入、流、を、が、受、め、り、庭、柄、を、あ、り、義、登、佐、が、つ、と、と、平、ら、い、も、  
与、り、の、と、小、僧、の、の、義、登、佐、の、腹、背、に、後、と、同、年、の、月、  
二、日、一、族、と、い、つ、く、小、僧、に、付、け、る、の、は、所、を、圍、む、之、浦、長、村、が、二

初、め、に、何、れ、を、遠、く、と、い、ども、合、戦、を、好、む、小、僧、も、有、令、一、の、所、  
等、て、防、戦、を、朝、夷、兵、勇、ま、た、よ、せ、と、門、を、押、破、り、敵、に、付、つ、る、  
敵、と、石、二、日、之、夜、息、を、ま、り、戦、戦、へ、ど、も、入、り、寄、り、あ、り、又、  
小、僧、も、一、の、所、に、在、り、し、る、由、所、の、所、に、在、り、し、る、か、り、  
軍、に、て、子、息、を、作、り、し、て、己、を、信、託、す、る、田、の、者、を、急、く、付、け、  
義、登、佐、の、子、を、取、り、能、力、を、ま、り、て、付、け、る、也、南、方、常、義、の、  
古、給、保、恩、と、同、く、我、坊、に、在、り、し、る、也、半、の、時、に、  
あ、り、甲、の、小、僧、に、自、害、を、二、男、に、取、り、去、り、向、入、敵、を、ま、り、  
自、害、と、引、引、し、る、あ、り、義、登、佐、の、子、を、取、り、去、り、  
敵、を、ま、り、取、り、し、る、あ、り、義、登、佐、の、子、を、取、り、去、り、  
信、託、す、る、あ、り、義、登、佐、の、子、を、取、り、去、り、  
の、忠、勇、堂、に、一、の、遊、居、し、る、あ、り、半、勝、ひ、  
敵、を、ま、り、取、り、し、る、あ、り、

庚辰官式盛

三十五



同 高井

茂宗二男 和田小二郎

平茂 高井三郎

重茂 右兵衛尉

時茂 同右兵衛尉

實茂 同四郎

時茂 同三郎

茂村 同兵四郎

茂重 同十郎

同 由井

茂宗三男 和田三郎

平宗實 和田三郎

同 和田

茂宗四男 和田四郎

平茂胤 和田四郎

胤重 同太郎

胤定 同二郎

胤平 同三郎

同 荏柄

茂宗五男 和田五郎

平茂長 和田五郎

胤長 荏柄平太



和田小二郎義茂  
武藏

茂宗の御孫と爲りて  
軍功ありて  
和田合戦の時  
和田にありて  
和田の御孫と爲りて  
和田の御孫と爲りて  
和田の御孫と爲りて



和田三郎宗實  
相模



和田四郎義胤  
相模

義胤一族と爲りて  
和田の御孫と爲りて  
和田の御孫と爲りて  
和田の御孫と爲りて



荏柄平太胤長  
相模

胤長の御孫と爲りて  
和田の御孫と爲りて  
和田の御孫と爲りて  
和田の御孫と爲りて







平義春

多々長四郎

光宗

同二郎

重春

同三郎

明宗

同四郎

重家

同四郎太郎

茂春

同小二郎

光連

同三郎右兵衛

同

佐原

義明七男

平義連

佐原十郎

左四郎尉

景連

同太郎右兵衛

盛連

同二郎遠江守

家連 同三郎肥前守  
政連 同七郎左門尉

千葉

桓武天皇四代高皇王三男  
鎮守府將軍良兼八代千葉  
介常重嫡男

平常胤

千葉介

胤胤

三井律師

胤正

千葉新介

師常

相馬二郎

義春も一族と同一ノ石橋ノ人等と  
すよ九又川の流のゆまらるるゆまらるる  
重春と由は流よ戦ハ二男三弟  
重家と由は流よ戦ハ二男三弟  
茂春と由は流よ戦ハ二男三弟  
光連と由は流よ戦ハ二男三弟  
後入



佐原左衛門尉義連  
和泉紀伊

小我功の和田三浦とひて後世家系と後世家系と  
長年重春を以て義連と祖とひて後世も連綿と相傳ふ



千葉介常胤  
下総

常胤ハ下総小在て之身也依依之孫也  
我ハ小利ナク房州へ渡リて之ハ九弟  
常胤とひて後世も流小て来由とナリ  
時よ常胤子も流集めて常胤の十と常と



亂成 武石三郎  
 亂信 大須賀四郎  
 亂通 國分五郎  
 亂頼 東六郎 從五位下

と早く山内入事と云々... 一後孫率て山内入事... 其の能於山内附られ鎌倉の山内代と令せし軍中の指揮... 亂成の元ハ備と云て三井寺小寺と伴師... 亂正の元ハ備と云て三井寺小寺と伴師... 亂成の元ハ備と云て三井寺小寺と伴師... 亂正の元ハ備と云て三井寺小寺と伴師...

同

常胤嫡子  
 平胤正 本即子業介



千葉新介胤正  
 下繪

胤細 千葉子

胤正の元ハ備と云て三井寺小寺と伴師... 胤細の元ハ備と云て三井寺小寺と伴師... 胤正の元ハ備と云て三井寺小寺と伴師... 胤細の元ハ備と云て三井寺小寺と伴師...

同

東

常胤六男



東六郎大夫胤頼  
 下繪



平胤頼 東六郎 從五位下

重胤 同平太 所右兵衛尉

と紫の野列と樹を和部わべの磯いそに於て入とす孫繁昌也

同 押

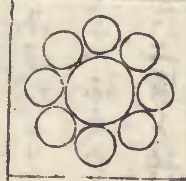
常重二男 千葉五郎

平常實 塚平太

定常 同平二平二常秀

時常 垣生二郎

時常ハ三浦家村ニ及連スルトテ討ツル



下総 塚平太定常

定常ハ多風ノ擧之依屬去ノ討ツ  
豆ハ多クテは多クは入リテハ多クハ  
ノ軍ノ功アリ擧を依氏ノ討ツル  
ノ秀又切アリ上総ハ多クハ

上総

桓武天皇四代高望王三男良兼  
八代上総坂本即常家男上総介  
常明長子

平常隆 上総介

常景 伊北新介

廣常 八郎 上総介

直胤 天羽庄司

常清 相馬九郎

頼次 金田小次

良常 八郎

定常 上総介

秀胤 上総権介

一族ハ早速彦常素之



上総 上総介廣常

廣常ハ千葉ノ國流之代ノ源氏小原  
保元ノ軍中功アリ平治ハ八義相  
長平十六騎ノ二人之右幕下依屬  
始メテ所ノ我ハ功有クテ  
父祖ノ如ク上総及ミ任セテ  
依屬房州小原村ノ時彦ハ一  
之運上高橋ノ事アリテ  
依屬依屬ハ依屬ハ依屬ハ



若又四恩と忘初一長田忠致小僧入とあり六長朝自ら征討と加へしと之を度と承て今依成敗軍の後中務と成度老か大軍と忘れとけ中務あり室小源氏再興の大將軍と世に傳ふく微若の朝臣偏し汝と頼もあやと意欲軍して中務の時那と名移馳向い小若の依成と我大軍中と之圖と捕りて平定する六共其交枝難めん小大勇の心振と成さる小僧のこころも勇と率て来よと依成の心解のこころ後時中務とく修らる度老忘入て是より老と勵しとく平定立ひて後進意と今も信する者あり青永幸中内所よあて殺さる後進心も幸明向うらうらうりてまきとる一とくも度老と成れとく之ども秀流の時之浦藤村小一味と上総小若と保和とあり付まると信とけし戦ひ付れしとあり終る

小山

左大臣魚名公五代鎮守將  
第1秀卿大代大田太郎行政男  
藤原政光  
小山下野大棟



小山左衛門尉朝政  
下野

朝政 同下野判官左門尉  
宗政 長沼五郎左門尉  
朝光 結城七郎上野介  
朝信 吉見二郎  
長村 小山判官  
朝長 同新左門尉  
時朝 小山修理大夫  
時長 同下野大棟  
宗光 同土郎左門尉

朝政は代々保氏小僧と依成義兵の始り兄弟あり二の志とそく又故六條の朝政為義の三男志田先生長度源義光朝政自立の企の時朝政をよ馳向い義成と為一由家進討のあつたの軍も勇と揚ひあり義成との合戦も大に登りて功あり母時長の身等保志も次存る由代六二池二弟三人戦功あり小より孫金友より朝政と義成との合戦も大に朝政の功あり義成の功あり義成の功あり義成の功あり



政村 薬師寺阿波守

右藤下小山が敵不取入る新政の支政光は家へ出て少礼と云は  
平瀬の熱台小二郎重家吉房より政光彼を考へ彼をやと解  
在幕下のゆふは八日午一の刻の者徳谷二市重実の嫡子少治平  
重家とくのもろ政光朝日午一の刻の若くは初と云ふて同小治  
彼等父子我城を條む毎末のそよはしと申す退けの付定治の  
傍みては初と云ふて敵取付九又一の若西の本たふ六二と  
穿ひて敵中へ馳入る橋と程のそこの敵を退くと政光は只は  
政光がとて取有る命をたふし知て軍をせり自守の備へかへ得るは  
向後命をたふし一勝社の軍をたふしと云ふはす付ゆんと云ふて  
中たる見てももろ之身と云ふべし朝政を後由たふすも重治は  
す為命に幸に月晦日奉ては幸半守命をたふすは幸半とて連絡す

同 長沼



長沼淡路守宗政

政光二男 藤原宗政 長沼五郎淡路守 左四尉

時宗 同淡路守 政能 同左四尉

十人連とて根原景時が悪半と云ふ所定改も十年の  
有と云ふどもいふるも悪半のりん和政と云ふは後人皆是  
と御務と云ふも孫景時と云ふは昔川と云ふと云

同 結城



結城上野介朝光

政光三男







藝國紙割の種ひきて行て...  
 中も...  
 是と威ど又...  
 下河邊庄司

下河邊

大田太郎行政三男  
 藤原行義 下河邊庄司

行平 同庄司  
 政美 益田左門尉  
 行秀 下河邊六郎  
 行光 下河邊左門尉

朝行 同 四郎  
 行時 幸島四郎

子孫...  
 右ふ...

佐野

鎮守府將軍秀卿茂淵名  
 太夫兼行長子足利太夫成行  
 嫡男  
 藤原家細 足利孫太郎

俊細 足利太郎從下  
 右細 同七郎  
 高細 山上五郎



下河邊庄司行平

行平ハ小山の一族...  
 志田合我小勇...  
 上棟の付いた中...  
 追行の...  
 海...



佐野太郎基細

基細ハ小山...  
 佐野...  
 佐野...  
 佐野...

廣...

四...



基綱 佐野太郎

廣綱 阿曾沼民部丞

信綱 木村五郎

忠綱 田原又太郎

あり佐野と同日く忠我系一山とめ系も徳も成るる一

園田

太倉行二男

藤原成實 園田七郎

成澄 同太郎

成基

後基 淡路守



園田太郎成澄 上野

一族佐野と同日く佐原小治の軍功あり上野小治を後基の孫とす

大胡

成行三男

藤原重俊 大胡太郎

成家 同二郎



大胡太郎重俊 上野

重俊も佐野の一族く武勇の覚えあり代り上野小治を

佐貫

無行六代孫太郎廣光男

藤原廣綱 佐貫四郎大夫

秀綱 同六郎左門尉

時綱 同太郎

廣房 同二郎

親綱 同右兵三尉



佐貫右衛門尉廣綱 上野

廣房源氏小治へあつて功ありしとき舟時源ハ大カ人小部より授けられたり佐貫右衛門尉廣綱の父とす









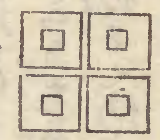


鎌倉正統

同

秀義嫡男  
源定細

佐々木太郎  
左工門尉



佐々木左衛門尉定細  
近江

廣細	同山城守
定重	鏡小太郎左衛尉
定高	佐来右衛尉
信細	同近江守
廣定	馬洲五郎左衛尉
時細	佐保帶刀
行細	伊佐左門尉
頼定	山中十郎

定重ハ秀義の嫡子ニ依成任其小内侍の  
時ヨリ隠居シテ山本ノ家付石橋守の軍兵  
小頼等ト号シ平家出陣の時モ然勿  
多ク依テ七ツ國の内中ニ大なる功  
中ヨリ隠居の玉ハ一か又地所ト成リ  
山門石橋守の儀ト命ゼラレテ其  
廣定ハ後醍醐院の中為小侍ト儀之の  
のれヨリ系方由テ彼軍一因ケル也

同

源信細

佐々木近江守



佐々木近江守信細  
近江

重細	小原太郎左衛尉
高信	高島隠岐守
泰細	佐々木壹岐守
氏信	同近江守
滿信	京極左門尉
頼細	佐々木備中守

信濃公男又小者ら儀兼之礼の時々  
一帯ノ宇治川と流レテ其名を嫡子  
を存重信又同トシ世にまた  
甲冑と稱孫赤裸小太郎等と成テ  
の小者ノ名ニ流レテ人の身則と稱  
の妹等と成テ其名を信濃公小太郎  
の妹等と成テ其名を信濃公小太郎

村方と山門の教所と云ふものありて  
頼前と云ふものありて信濃家督と云ふ

鎌倉正統



長綱 西條壹岐守  
輔綱 鳥山左門尉

同

秀義二男 佐々木二郎  
源經高 兵部丞

高重 同弥太郎判官  
高範 同左門尉



近江 佐々木兵部丞經高

信上之叙せしる信忠と佐々木の嫡流

免許の丈と云ふこと能再面瓜合と申と仰て自害と申す事  
系合我よす捕と云うこと條河系よめりて後せし信忠も  
の旧功多ふもの法と云ふ事

同

秀義三男 佐々木三郎  
源盛綱 左兵衛尉

成綱 木村源三  
信實 加地右兵衛尉  
盛季 佐々木左門尉

李忠 磯部左門尉  
實秀 加地右兵衛尉  
時秀 同左門尉  
信重 同右門尉  
資實 同左兵衛尉  
茂綱 倉田五郎  
時基 加地左門尉



佐々木右兵衛尉盛綱  
備前

密隠伊豆より隠居して死すの軍小  
切あり平家退付の時備前の峯戸の海と  
馬西て後一と云ふ事退居し隠居と云う  
古今未嘗有の儀は成りぬる事仁元奉  
祇後の孫小を奉養し送る事  
その坂の孫中親了とて権威と振入共  
御母板額女勇力万人は後世又弓の  
妙と云ふ事百奈百中の精云々  
その孫小の孫中親了とて権威と振入共  
御母板額女勇力万人は後世又弓の  
妙と云ふ事百奈百中の精云々















藤原氏はして仁徳天皇の御代に全族のよし勇ハ東國より来りて  
 子息の事重保万石を賜ふに元平時政が輩武將の能く  
 とは倫し時政の後を継ぐ者も後世に色徳有る事多し  
 時政養子重光が長子重光が長子重光が長子重光が長子  
 重保が子に付て重光が長子重光が長子重光が長子重光が長子  
 二月山藤武敏連時房和田五郎門尉長盛と云ふは元平時政の  
 中家一人万石を賜ふに元平時政の長子重光が長子重光が長子  
 と云ふは元平時政の長子重光が長子重光が長子重光が長子  
 一万余石の味方ハ後三百人重光が長子重光が長子重光が長子  
 重忠が自今重光が長子重光が長子重光が長子重光が長子  
 重忠が自今重光が長子重光が長子重光が長子重光が長子

あん 重光が長子重光が長子重光が長子重光が長子  
 馬帽子の法衣を賜ふに後三百人重光が長子重光が長子  
 重忠が自今重光が長子重光が長子重光が長子重光が長子  
 重忠が自今重光が長子重光が長子重光が長子重光が長子  
 重忠が自今重光が長子重光が長子重光が長子重光が長子  
 重忠が自今重光が長子重光が長子重光が長子重光が長子

稲毛 小山田



稲毛三郎重成  
 武藏

秩父太郎重弘二男  
 小山田別當  
 平有重

重忠が自今重光が長子重光が長子重光が長子重光が長子



重成 稲毛三郎

重朝 榛谷四郎

行重 小山田五郎

重政 小沢三郎

作ふ後て大河戸を弁  
ハ字の長子一祐付ふ付る

榛谷

右重二男 榛谷四郎

平重朝 同太郎

秀重 同二郎

平六の末尉兼村は瓜系にてまね紙付つてさるゝあへん  
ハ付書付

川越

秩父権頭重綱二男

平重隆 秩父二郎大夫

能隆 尊貴別當

重頼 川越太郎

重房 同小太郎

重時 同二郎

重貞 同三郎



榛谷四郎重朝

武藏

ま朝ハ武勇の者ありて救軍軍功



川越太郎重頼

武藏

言はれハまるとたよ佐及のり海まよ  
まより筋の我小功ありて川越まよ  
ハ折を流りてまよまよとたよまよ  
あり後系経の留ありまより他折乳紙  
ありハ折紙まよ紙然れども二用まよ員



又祖の忠功よりて武將の國を授けを命ぜり給

江戸

重細四男 江戸四郎  
平重繼



江戸右兵衛尉重長  
武藏

重長 同本郎 右兵衛尉

親重 同二郎

重道 同四郎

重宗 同七郎

能範 同左門尉

景益 同八郎

重保 同七郎

重長ハ石橋山の時に敵討りとて... 依後下總ハ紙討りて... 汝と云云の格... して... 一族... 且... 程... なる... 南田川の... 川... 事... 降... 兵... 是... 軍... 功...

葛西

上総介良兼九代三郎清光男  
平清重 葛西三郎右兵衛尉 壹岐守



葛西壹岐守清重  
武藏

重元 同四郎  
朝清 同伊豫守

武勇の器あり... 時... 切... 援... 群... あり... 右... 希... 下... の... 寵... 厚... あり... 付... 記... せ... 二... 田... 加... 治... ハ... 伊... 予... 女... の... 女... たり

澁谷

上総介良兼五代秩父將恒孫



澁谷庄司重國  
相模







土屋

宗平二男 土屋三郎



土屋三郎宗遠 相模

宗光 同三郎左門尉

我功ありる孫景光にて

宗遠の女肥実平が骨之仔を宗光の  
時より大に愛せし故に宗光の孫と  
おぼせしと云ふ

梶原

良兼兵衛鎮守府將軍村岡  
小五郎忠通三代梶原太郎  
景光

平景長 梶原太郎

景時 同平三



梶原平三景時 相模

良兼の孫鎮守府將軍村岡  
小五郎忠通三代梶原太郎  
景光の孫平景長  
景時は始り大倉侯野原信俊の孫  
後を継ぎしと云ふ

朝景

同刑部丞

景貞 同右兵衛尉

景衡 同二郎

景盛 同三郎

景氏 同七郎

景季 同源太左衛尉

景高 同平二左衛尉

景茂 同三郎右兵衛尉

景國 同六郎

景宗 同七郎

景則 同八郎

景連 同九郎

景貞 同九郎

大倉侯平景長の孫景時を以て  
景時は始り大倉侯野原信俊の孫  
後を継ぎしと云ふ  
景時の子景長は始り大倉侯野原信俊の孫  
後を継ぎしと云ふ  
景長の孫平景長は始り大倉侯野原信俊の孫  
後を継ぎしと云ふ  
平景長の孫景時は始り大倉侯野原信俊の孫  
後を継ぎしと云ふ

織田信長

三十一















不意後小舟のひてたふる小舟尾定まが勢の中よまうと  
傳ひしうらりそまなゆまよと向ふ定まききてこれとよ我  
る様ゆきそま志と付より戦場のあひひらりとせまきなる  
是者多ればあふよふ西に我今因と必き内首分列ら平  
列して修るの鬼とてあてと戦らんものさう後て彼  
總分度りて大徳の弘誓と頼ひるに我身の飛流消滅の  
あもく一日百巻の備へりてそま定まめてまきまき  
付るも私の娘のあひらとてそま定まきまきそま  
るれと右幕少定まきまき助命と頼へりてはまきまき  
も尾まれをまきまきまきの片後より心殺れと頼りて  
小列一是よりたまきまきまきと建保七年二月廿七日  
頼朝大御と頼朝一より時之曉の計もまきまきまき  
ふも二男流まきまきまきまきまきまきまきまき

工藤

有良臣武智麻呂十代駿河守  
維景四代

藤原家次

祐次 工藤藤原武者所  
入道殿  
祐親 伊東二郎入道  
家光 工藤四郎  
茂光 狩野介



工藤左衛門尉祐經  
伊豆

祐經の先祖祖系より代々伊豆を治る  
之は其の在任に於て又祐次より伊東  
沼原祐親へは三がの在任よりあるが不  
兄弟の甲不和ありて出入りする事あり  
祐次は遂に之を殺しとらへるる小舟を



祐恭

河津三郎

祐清

伊東九郎

女子

頼朝卿妾  
後山未母隆室

女子

二宮本却朝感生

祐成

曾我十郎

時致

同 五郎

祐經

工藤左門尉  
如名金石丸

祐茂

左門尉  
工藤三郎

祐時

伊銀大和守  
工藤六郎

祐長

工藤六郎

病ひありて日多流ひ泣き一祐親は死  
 せて中申は恨ひ見入るる事あり病  
 と流ひ入る事推しよるて我身は身と以  
 是事不致る後悔する事之世不令を  
 病之初の一後て打撥ひ子殿推し未  
 逐ひて一の事ありは方とも物けまひ  
 甘んと言ひ巧みして是は中と病の事  
 後て今と遠なる事我が病の事あり  
 世て来ありはるる骨肉の好身あり  
 多世の事ありとてども言未  
 祐一初りては我は我なりて不似瓜分法一全  
 ありては玉似瓜分法ありては玉似瓜分法あり

祐親は是安き之甥の孫の今も我まの必心祐一の  
 ありては玉似瓜分法ありては玉似瓜分法あり  
 石考の似ひるる事と教訓して後卒ま甘り是より祐親は兄  
 の類より後て是事と我は我なりては玉似瓜分法あり  
 二の玉似瓜分法ありては玉似瓜分法あり  
 玉似瓜分法ありては玉似瓜分法あり  
 祐親は是安き之甥の孫の今も我まの必心祐一の  
 ありては玉似瓜分法ありては玉似瓜分法あり  
 石考の似ひるる事と教訓して後卒ま甘り是より祐親は兄  
 の類より後て是事と我は我なりては玉似瓜分法あり  
 二の玉似瓜分法ありては玉似瓜分法あり  
 玉似瓜分法ありては玉似瓜分法あり  
 祐親は是安き之甥の孫の今も我まの必心祐一の  
 ありては玉似瓜分法ありては玉似瓜分法あり  
 石考の似ひるる事と教訓して後卒ま甘り是より祐親は兄  
 の類より後て是事と我は我なりては玉似瓜分法あり  
 二の玉似瓜分法ありては玉似瓜分法あり  
 玉似瓜分法ありては玉似瓜分法あり











